令和６年度　志摩市社協ボランティアセンター活動報告

しまのなか

ボランティアセンターでは、ボランティアをしたい方とボランティアを必要としている方をつなげる橋渡しをしています。また活動を支援するため、ボランティアに関する相談や情報提供、講座の開催、保険の手続きなどを行っています！

本紙とボランティアセンター事業は、皆様からご協力いただいた赤い羽根共同募金を活用しています。

志摩市社協ボランティアセンター
マスコットキャラクター
「しまわん」

災害ボランティアセンター

志摩市で災害が起こり、復旧、復興のためボランティアの力が必要となった時には、災害ボランティアセンターが立ちあげられます。被災者に寄り添い困りごとを聞き、そして県内外から集まるボランティアの力を活かすには、社協の職員だけでは十分ではありません。共に災害ボランティアセンターを運営してくれる人材が必要となります。

志摩市社協では、その人材を災害ボランティアコーディネーターと呼称し、令和元年から人材養成講座を実施してきています。今年度も特定非営利活動法人みえ防災市民会議の山本康史さんを講師にお招きし、水害と地震災害それぞれで求められる災害ボランティアセンターについて学びました。

今年度は過去最多の28名が参加しました。「災害が多いため、学べることがあると思った」「いつ志摩市が災害に遭うかわかならないので知識がほしい」といった声が聞かれ、能登半島地震や頻発する水害の影響もあって災害に対する意識の高まりを感じます。

参加者からは、「被災者の気持ちを考えることができた」「市民のボランティアとしての役割を学べた」「災害の種類でニーズが違うことが分かった」といった感想が聞かれました。

続いて12月には、三重県総合防災訓練のサテライト会場として、志摩市災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施しました。

行政・社協・ボランティア等の総勢59名で訓練を行い、ボランティアを受け入れてから、ボランティアが活動をして帰路に着くまでの流れをシミュレーションしました。

また、被災時に起こり得る問題の解決に向け、市内外の関係機関やNPO等によるロールプレイを行い、広域連携の仕組みづくりについて考えました。

災害ボランティアセンターの運営と関係機関との連携状況を確認することができました。

ボランティア交流会

市内のボランティアが集まり、日々の成果や課題を共に掘り下げ、思いを共有する場としてボランティア交流会を開催しました。

講師は、特定非営利活動法人Mブリッジの米山哲司さんで、「つながりのつくり方と信頼の育て方」を学び、「担い手不足の解消」について考える機会としました。

「信用と信頼の違いがよくわかった」「楽しく振り返りができた」「次の世代にボランティアをつなげていくことを考えていきたい」といった感想が寄せられています。

また、犬猫の保護活動をしている「特定非営利活動法人PeaceDesign」と健康麻雀の普及をしている「NEOシニア倶楽部」の活動発表もありました。日々のボランティア活動や思いを共有する機会となりました。

今後も、このような機会を作ってボランティア活動の活性化に取り組んでいきたいと思います。

編集・発行
志摩市社協ボランティアセンター
〒517-0501 志摩市阿児町鵜方3098-1サンライフあご２階
☎：0599-55-3885　FAX：0599-44-1103 ✉：chiiki@shima-fukushikyo.or.jp
FB　インスタ　HP

ふくしサマースクール

夏休みの期間を利用して、小中学生を対象とした、ふくしサマースクールを開催しました！
子どもたちが福祉について触れる、学ぶ機会として開催しています。

今年度は、「障がい福祉」と「防災」をテーマにしました！

障がい福祉 chapter

車いすバスケット体験！

2024年はパラリンピックで賑わいました。「障がい者スポーツへの関心から障がいについて理解を深めてほしい」そんな思いを込めて、津市を拠点に活動している車いすバスケットチーム「三重チャリオッツ」の協力を得て「車いすバスケット」の体験を行いました。

車いすバスケットでは、専用の車いすを使用します。通常の車いすとは異なり、素早くターンができるようタイヤはハの字型になっており、ブレーキはついていません。また、身体をしっかりと固定するためのベルトが付いています。

三重チャリオッツの選手たちの指導のもと、鬼ごっこなどで車いすの操作を学び、パスやシュートの基礎的な練習を行いました。最初はうまく操作できなかった子どもたちも、次第に上達していきました。その後、子ども同士で試合にも挑戦した際は、試合も応援も楽しむひたむきな子どもたちの様子がとても印象的でした。

また、選手たちのスピード感あふれる激しいプレイは迫力満点で、子どもたちからは「ガンガンぶつかって激しいプレイがかっこよかった」「すごい！自分にはできない」といった感想が寄せられました。ゴールにつながるパスもとてもかっこよかったです。

「車いすに乗っているおじさんでも気軽に声をかけてほしい」
三重チャリオッツの選手の言葉です。この体験を通じて、人と交流の垣根が下がって障がいのあるなしにかかわらず、つながりを持っていってほしいと思いました。

防災 chapter

防災デイキャンプ！

みえ防災コーディネーター志摩の会と協力して、ともやま公園キャンプ村にて「防災デイキャンプ」を実施しました。

災害時には、様々な困難に直面します。特に避難所においては限られた空間で多くの人が暮らすため、衛生面やプライバシーの問題から心身の健康が問題となります。

そのことから、ブルーシートと身近な材料を使った「テント作り」と「簡易トイレ」の組み立て体験を行い、災害時にも役立つ知識を学びました。

生きていくためには食事も必要不可欠です。様々な非常食や食事のアイデアの中から、お米を湯煎で炊くことや、カンパンと缶詰でアレンジした即席デザートなど、簡単に作れる食事のアイデアを学びました。

防災に関する〇×クイズでは、難題に苦戦しながらも、楽しみながら災害への理解を深めることができました。子どもたちからは「〇×クイズでいろいろ防災のことが知れた！とてもよかった！」と大好評でした。

また、災害が起きた際、自宅の倒壊や備蓄を心配する声が多く、避難所・避難ルートの確認や備えの見直しといった感想が寄せられました。

改めて備えと準備が重要であることを感じた一日となりました。

【感想】

「たくさんのことを楽しみながら学べてよかった。地震はいつ起こるか分からないので、いつ起こってもいいよう避難グッズを用意しようと思う」

「瓦やブロック塀が倒れてくる話を聞いて家から避難所までの道を確認しようと思った」

「乾パンをもっと美味しくするアレンジの仕方がよく分かった。テントを立てても立てても立たなくて困りました」

「学校の地震の避難訓練で避難する時に１回低い所に下がるので下がっている間に津波が来たらどうしようと思う。避難する距離が長いので結構危険かも」

ボラチャレ！

TRAIAL × MEET × FUTURE

ボランティアチャレンジ！略して「ボラチャレ」！

「ボランティアに興味はあるけど、一歩踏み出せない…」市民がボランティアを始めるきっかけづくりとして、実際にボランティア団体の活動を体験できる「ボラチャレ」を開催しました。

今年度で3年目を迎えましたが、ご協力いただいたボランティアは21団体で、体験参加者は47名となり、これまでで最も大きい規模になりました。

「達成感を感じることができた！」「普段出来ない体験ができて楽しかった！」との声が聴かれ、充実した体験となったことがうかがえます。また、今年度のボラチャレ体験者の約半数がボランティアを始めることになりました。

ボラチャレがボランティア参加を促進し、担い手不足の解消につながることを期待しています。

【参加のきっかけは？】

「自分で何かできないかと考えていました。絵本の読み聞かせは過去にやったことがあり、参加させていただきました」

「子どもにいい経験をさせることができると思ったから」

「自分にも何か出来る事がないかを探すため」

「ボラチャレのリーフレットに麻雀の牌の絵があり誘われました。麻雀もボランティアになるのかと思いました」

【体験はいかがでしたか？】

「大変楽しかった！年齢や性別関係無しに楽しめる素敵な会でした！」

「短時間だったので参加しやすかった」

「ボランティアの方が、凄く良くて自分達の活動についてもたくさん話してくれて、本当に楽しかったです」

「刺激を受けることが多かった」

「力を合わせて、皆で1つのものを完成させる作業がよかった」